

### III 説明用三つ折りパンフレット<sup>①</sup>

以下からの支援によって作成:

米国医学物理学会(AAPM)  
<https://www.aapm.org/>

米国放射線科専門医認定委員会  
(ABR)  
<https://www.theabr.org/>

米国放射線科専門医会(ACR)  
<https://www.acr.org/>

米国放射線技師協会(ASRT)  
<https://www.asrt.org/>

Image Gently®  
<https://www.imagegently.org/>

米國小児放射線学会(ASRT)  
<https://www.pedrad.org/>

他のリソース:

米国医学物理学会:  
遮蔽に関する放射線教育の進歩につ  
いてコミュニケーションする  
(Communicating Advances in  
Radiation Education for Shielding,  
CARES)  
<https://www.aapm.org/CARES/>

英国放射線学会  
<https://www.bir.org.uk/>



画像検査についてご質問や懸念が  
ありましたら、担当の診療放射線  
技師か医師にご相談ください。

NCRP Statement No. 13  
「骨盤部・腹部単純X線撮影時の  
慣例的な生殖腺遮蔽の廃止に向  
けたNCRP勧告」の情報  
<https://ncrponline.org/publications/statements/>



鉛エプロンはどこに?

なぜ、生殖腺遮蔽は  
もう推奨されないのか。

もう画像検査時に患者様の生殖腺  
を遮蔽していないことに、お気づきか  
もしれません。

70年以上に渡る研究から、医療  
の専門家は、画像検査時に遮蔽具  
を使用しないことが、患者様の安全  
を確保する最良の方法であることを、  
今では知っています。これは、子ども  
をつくる予定が将来ある方々を含め、  
どの年齢層にも当てはまります。そし  
て、これは、これまでずっと行われてき  
たことと違っています。なぜこのような  
変化が生じたのか、このパンフレット  
でご説明します。

米国放射線防護審議会

<https://ncrponline.org/>

### 背景

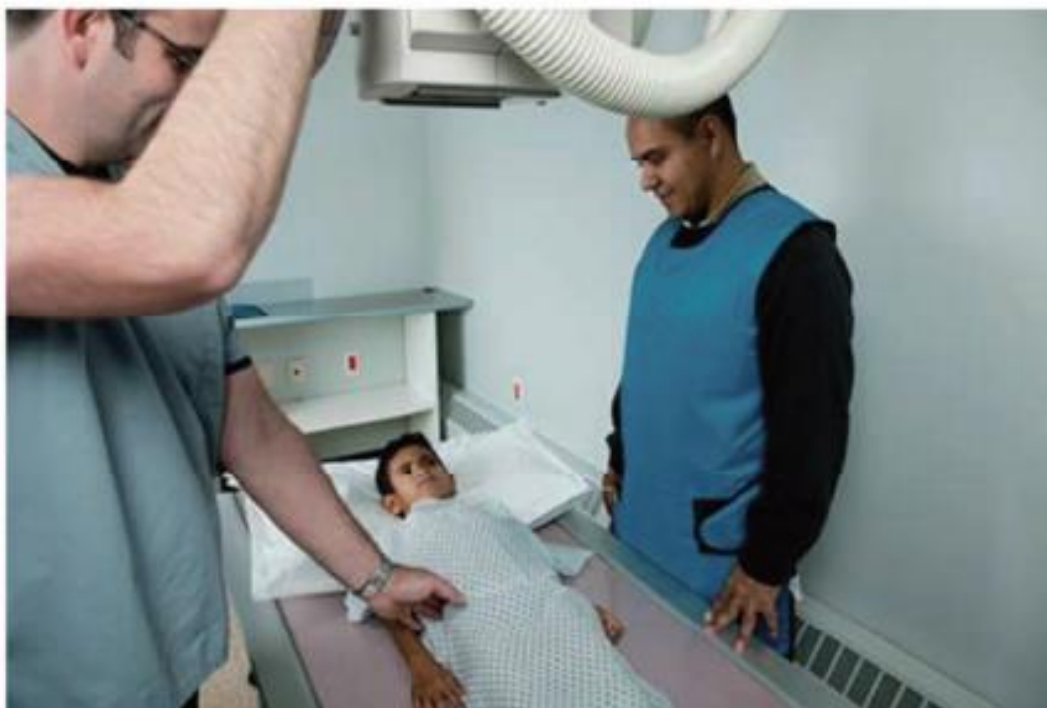
画像検査で使用するX線が身体に  
どのような影響を及ぼすかについて、  
1950年代の医療の専門家には、今  
より知識がありませんでした。

ひとつの懸念は、次世代に継承さ  
れる細胞を放射線が傷つけてしま  
うかもしれないことでした。そのため、  
画像検査時に患者様の生殖器の  
上に鉛遮蔽具をおくことが、よくあり  
ました。

遮蔽具を使用しないことが安全な  
画像検査を行う最良の方法である  
ことを、今では知っています。



骨盤部単純X線画像



画像検査で使用する放射線の線量  
は、1950年代から95%よりも減って  
います。技術改良によって、現代の医  
用画像検査装置では、とても小さい  
線量の放射線で、高品質な画像を  
取得できるようになりました。

生殖腺の放射線への感受性は、従  
来考えられてきたよりもずっと低いこ  
とを、科学者が明らかにしました。こ  
れは、子どもや、子どもをつくる予定が  
将来ある大人を含め、全ての人に当  
てはまります。

遮蔽具は、医師が診る必要がある身  
体の部分を覆ってしまいます。このよ  
うな場合、再検査が必要になるかもし  
れません。

遮蔽具によって、X線装置の他の線  
量低減機構が機能しなくなります。X  
線装置には、検査時に適切な線量だ  
け確実に使用するための機能が備わ  
っています。遮蔽具は、この機能を妨  
げ、検査時の線量が増えることがあ  
ります。